

令和7年度 事業報告書 醍醐いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社ワン・ワールド】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 3 名、非常勤 3 名）

【人材育成の取組】

醍醐いきセンでは、令和 4 年度から毎年京都橘大学の「学まちチャレンジ！プロジェクト」と連携し、地域でまちづくりやボランティア活動をしたい学生の受け入れを行ってきた。学生が地域で取り組む活動において、自分たちがやりたいことを明確にして活動に至るまでのサポートを行った。卒業してからもボランティアとして地域の活動に参加することとなった。

スタッフにおいては、京都府生涯現役クリエイティブセンターで開催されている「生成 AI パスポート取得」講座を受講。リスクとコンプライアンス、情報セキュリティの基本等を学ぶ。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
85	81	89	91	90	87	102	94	76	80	77	95

(年間)

1,047 件（前年度比 103%）

イ 利用状況

○平日、土日に関わらず、年間を通じて集会室の利用が多く、ジャンルは子ども大人を問わずダンス系サークルや空手の利用が多かった。会議室では平日昼間の利用が多く、中高年の詩吟やコーラス、楽器演奏などの文化系サークルの利用が多かった。和室では昼間に楽器演奏が高い頻度（週 3～4 日）で利用があり、午後から夜間にかけて空手や体操サークルの利用も定期的にあった。

○会議室 3 に鏡を設置したことで、ダンスサークルの個人レッスンでの利用が増えた。

ウ 利用促進に向けた取組

○SNS での発信をきっかけに、利用につながった。だいがゆめもり秋祭りや醍醐いきフェスティバルなど、活動発表の場をいくつか提供することで、それに伴い利用率が上がった。

エ その他

○サロンの利用者数は 748 名で前年度比 49.8%。減少の理由は、サロン事業の「ましかど美術館」に作品を提供してくださっていた春日丘センターの状況の変化により、作品の提供や利用者の見学が減ったことと、毎日来られていた高齢者が体調不良でほとんど来られなくなったため。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

○ホームページ、Facebook、X、Instagram、LINE など SNS で情報を発信。

Facebook、Instagram はほぼ毎日、X でも積極的に発信している。リーフレットも気軽に手にしてもらえるようデザインやサイズを一新して、いきセンのイベントだけでなく、他の連携事業のイベントでも積極的に配布した。

○7 年度は他団体や行政との連携事業やイベントが多く、いきセンとして市民活動相談のブースを出すなど、アウトリーチ活動も積極的に行った。

イ 取組の効果

○連携先のイベントに参加することで、センター単独では出会えない市民や団体にアプローチすることが出来た。また SNS を見て、貸館利用につながった。

(4) 管理運営

○建築設備点検、消防設備点検、自家用工作物の保守管理、定期清掃等を実施。

(5) その他

○施設運営においては、利用者からの声に真摯に耳を傾けて、スタッフ内でもすぐに共有できるよう努めた。

○7 年度も地域の様々な団体や施設、行政と連携しての取組が多かった。

・辰巳保育所では、いきセンと活動団体で子どもや保護者向けに手作りコーナーを担当し、子育て層にいきセンを周知することが出来た。

・春日野小学校では、地域の消防団や少年補導、PTA などが子ども向けにゲームをする学校行事に、いきセンも毎年協力団体として参加させてもらっている。そういう関係性が出来ていることから、いきセンのフェスティバルを小学校の体育館で開催させてもらうことができた。

・高齢者施設の同和園との共催事業では、いきセン単体では繋がれない地域の多様な団体や企業と一緒に一つの祭りを作ることが出来た。4 年目となる 8 年度は誰もが参加しやすい醍醐地域の中心部に会場を移して、地域の子どもから高齢者まで、障がいがある方も当たり前を楽しめて主役になれるイベントとして開催予定。

・醍醐支所との連携事業では「つながるプラットフォームミーティング」「醍醐まちづくりカフェ」「だいき子育てオープンデイ」で、いきセンと関わりのある活動家を紹介したり、市民活動相談コーナーを担当したり、いきセンとしての役割を果たすことが出来た。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】だいが未来プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）（①～⑦）

予算： 2,179,750 円 / 決算： 2,273,152 円

①「ふらっと相談カフェ」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年5月～3月 毎月第3月曜日 13時～15時
- 2 開催場所：Cafe & Shop ふらっと / 醍醐いきいき市民活動センターサロン
- 3 参加人数： 延べ35名
- 4 協力団体等：京都市協働コーディネーター、ギター演奏ボランティア

1 事業内容

毎月第3月曜日の13時から15時にかけて、「Cafe & Shop ふらっと」を会場に、市民が気軽に立ち寄れる相談・交流事業を実施した。福祉、町内会活動、まちづくりなど多岐にわたる相談に対し、「醍醐いきいき市民活動センター」のスタッフ、まちづくり協働コーディネーター、および地域ボランティアが連携して対応した。単なる相談業務に留まらず、14時からギター演奏の時間を設けるなど、リラックスした雰囲気（ゆったり、おしゃべり）の中で対話が生まれる場を提供した。

2 準備段階での工夫

「コラボ企画」として、社会福祉法人だいが学園が運営する「Cafe & Shop ふらっと」を会場として使用し、福祉施設との連携体制を構築した。また、地域ボランティアの参画を促し、相談対応だけでなく、ミニコンサート（ギター演奏）も実施した。これにより、行政サービスの一環としての「相談」を、地域住民による「支え合いと交流」の形へと昇華させることができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

孤立しがちな住民が社会との接点を持つきっかけを作ること、および、まちづくり活動に対する心理的ハードルを下げる。月平均3～5名程度の来場者確保と、相談をきっかけとした新たな地域活動へのマッチングを成立させること。

（2）事業実施による目標の達成度

「カフェでの相談」という形態により、「ちょっとした困りごと」を早期に吸い上げる仕組みとして機能した。また、第3月曜日が祝日の場合も平日に来れない方が相談に来て様々な層が気軽に来れる空間になった。「役所の窓口に行くほどではないと思っていた町内会の悩みを、コーヒーを飲みながら気軽に聞いてもらえて心が軽くなった。」等の声があり、いきセン事業の参加者が相談ある際に相談カフェを促したり、相談カフェの参加者にいきセン事業を紹介し参加に繋がったりと事業と事業の橋渡しも出来た。

4 今後の抱負

今年度の実施を通じ、カフェという「サードプレイス」での相談支援が、地域コミュニティの活性化に極めて有効であることを再確認した。今後は、相談内容を分析し、より専門的な支援が必要な場合には適切な関係機関へスムーズに繋げる「ハブ機能」を強化していく。また、参加者同士の交流から新たな「自主的なまちづくり活動」が生まれるよう、コーディネーターによる伴走支援をより丁寧に行っていきたい。

事業風景の写真



②「醍醐 de ワイワイ井戸端会議 あなたもコミュニティデザイナーになろう！」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年6月23日（月）13時～16時
- 2 開催場所：伏見区役所醍醐支所会議室
- 3 参加人数：33名
- 4 協力団体等：伏見区役所醍醐支所、京都市協働コーディネーター

1 事業内容

「地域資源の連携が生み出すパワー！」をテーマに、地域課題を解決する「コミュニティデザイナー」の育成研修を実施した。京都橘大学教員による講義、事例紹介、そして「地域資源を活用したプロジェクトデザイン」を学ぶワークショップを行った。最後に、自由参加の交流会を設け、参加者同士のネットワーク構築を図った。

2 準備段階での工夫

会場での参加に加え、オンラインでも同時開催で実施した。これにより、移動の制約がある方や、遠隔地からも参加できる環境を整え、多様な参加者層の確保に努めた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

地域住民が「新しい公共」の考え方を学び、自らの地域資源を活用して課題解決に主体的に関わる仕組み（プロジェクトデザイン）を習得すること。

当センタースタッフのスキルアップ。

（2）事業実施による目標の達成度

定員を超える参加で、高い関心が寄せられた。講義からワーク、さらに自由参加の交流会まで一貫したプログラムを提供したことで、「学ぶ」から「つながる」へのシームレスな移行が実現した。特にワークショップでは、具体的な地域資源の活用手法を共有し、実践的なスキル向上に寄与した。「地域に対する熱い思いをもった方々とつながることができ、エネルギーをいただいた」「具体的なプロジェクトの進め方が見えてきた」との声があった。

交流会の時に、当センタースタッフが参加者同士のマッチングを行い、実際にボランティア派遣につながった。

4 今後の抱負

定員を超える参加人数で、地域資源を掛け合わせる「コミュニティデザイン」への関心の高さがみられた。アンケートでも「具体的な次のアクション」を求める声が多かったことから、今後はこの場から生まれたプロジェクト案を実際に形にするための「実践編」の開催や、個別相談による伴走支援を強化していきたい。

事業風景の写真

要申込
参加費無料
先着30名
リアル・オンライン
開催

配属deワイワイ戸塚会議
地域資源の連携が
生み出すパワー!

京都市

あなたも
コミュニティデザイナー
になろう!

地域のつながりを育て、
みんながいきて暮らせる社会を目指して——
多様な人や資源をつなぎ、地域をよりよくする方法を学ぶ研修会を開催します!
「新しい公共」を考え、地域の課題を見つけ、解決のためにさまざまな人をつなぎ
まちづくりにみんなが関わる仕組みをデザインするコミュニティデザイナーになろう!
研修の後は交流会も開催します。是非ご参加ください。

こんな方に
おススメ!
公衆施設管理に関わりたい
市民活動に関わりたい
テーマに興味がある人など

6/23月 13:00~16:00
伏見区役所醍醐支所3階会議室
京都市伏見区醍醐大津町28
（醍醐駅より徒歩10分）

プログラム
13:00 開会挨拶
13:10 講演「京都市における地域共生社会の必要性と求められる人材像」
講師:大田雅之（京都府大学）
13:40 事例紹介+当事者クロストーク+質疑応答
14:20 休憩
14:25 ワーク「地域資源を活用したプロジェクトデザインの手法を学ぼう」
15:50 チェックアウト・アンケート・交流会お知らせ
16:00-17:00 交流会（自由参加）

お問合せ・お申込み（フォームorお電話orFax）
京都市醍醐いきいき市民活動センター
☎ 075-571-0035 FAX 075-573-5224
開催時間 月～土10時～21時 日10時～17時
会場 伏見区役所
主催 京都市醍醐いきいき市民活動センター
（協賛:京都市、京都市文化市民局、京都市社会福祉協議会）
協力 伏見区役所醍醐支所
後援 醍醐・醍醐北地区公民会連合協議会

京都市印刷部 案 070808 号
発行 京都市文化市民局地域自治推進課 令和7年5月
この印刷物が不要になれば「廃がみ」として資源回収へ!



③「だいがゆめもり秋祭り」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年9月27日(日)16時～20時
- 2 開催場所：醍醐いきいき市民活動センター、友愛ひろば
- 3 参加人数：750名
- 4 協力団体等：だいがゆめもり秋まつり実行委員会（醍醐いきセン、体験型子ども食堂みらい食堂、京都橘大学）

1 事業内容

醍醐いきセン、みらい食堂（体験型子ども食堂）、京都橘大学が「だいがゆめもり秋まつり実行委員会」を立ち上げ、お祭りを開催した。

醍醐いきセンおよび友愛ひろばを会場とし、飲食ブースやゲームコーナーなどを設けた。

2 準備段階での工夫

センターの指定管理者である株式会社ワン・ワールドに加え、地域の自治町内会、京都橘大学、京都市ユースサービス協会、社会福祉法人だいが学園など、多岐にわたる団体と実行委員会を組織し、官民学が連携した準備体制を構築した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

地域住民の帰属意識の向上、および多世代が自然に交流する場の提供。若者ボランティアによる主体的な運営の実現。

（2）事業実施による目標の達成度

いきセンのことを知らなかった方々に多数ご来場いただき、センターの認知を広げる良い機会となった。

様々な団体からボランティアの方が来られ、新たな繋がりを築くことができた。加えて、協力団体にとっても社会活動の受け入れ先として、貴重な体験の場を提供することができた。

上鳥羽北部いきいき市民活動センターにも出店していただき、いきいき市民活動センター同士の交流が持てた。

ボランティア同士の交流があり、新たな活動に誘い合ったり、やりがいや楽しさを知ってもらう良い機会となった。

洋服の交換会での活動では、昨年も来られた方が寄付の物を持って来たり、事業の参加に繋がった。

4 今後の抱負

次年度は、若者や企業にも参画してもらいステージ企画の構成や広報物のデザイン、当日の司会進行など、より中核的な役割を担えるよう、エンパワーメントを目的とした支援を強化し、みんなで発展させていきたい。

事業風景の写真

京都府 京都市

だいごゆめもり

秋祭り

醍醐いききと友愛ひろばで
お祭りを開催します♪
屋台やゲームコーナーもあり♪

9/27(土) 16:00～20:00

雨天決行
荒天中止

会場 醍醐いきいき市民活動センター
友愛ひろば
〒601-1345 京都市伏見区醍醐外山街道町21-21

録日

- 子ども遊び場ブース
エコ体験ブース
西陣織ワークショップ

屋台

- 焼きそば
焼き鳥・焼きおにぎり
かき氷・フランクフルト
ホルモン・缶ビール
カラフルゼリーポンチ
ラムネ
その他

ステージ

- ダンス
音楽演奏
盆踊り
ビンゴ大会

お問合せ
醍醐いきいき市民活動センター
TEL 075-571-0035
FAX 075-573-5224
〒601-1345
京都市伏見区醍醐外山街道町21-21
開催時間：月・水・土 10時～21時
日 10時～17時
※火曜日休館

主催
だいご夢もり秋祭り実行委員会
・京都市醍醐いきいき市民活動センター（指定管理者：株式会社ワン・ワールド）
・みらい憩堂（食を通して文化体験プロジェクト実行委員会）
・京都編入大学「学まちチャレンジ」プロジェクト
・醍醐いきいき市民活動センターチーム

協力（順不同）
・醍醐自治会、社会福祉法人醍醐、宝生庵、はさまカフェ
・オレンジャー、上原真知子いきいき市民活動センター
・京都編入大学まちづくり研究会、醍醐エコまちステーション
・民間学生団体M4-ME、京都市だいご学園




④「醍醐いきいきフェスティバル」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年12月7日(日)13時～16時
- 2 開催場所：京都市立春日野小学校体育館
- 3 参加人数：250名
- 4 協力団体等：はざまカフェ、京都市だいが学園、Lガーデン

1 事業内容

醍醐いきセンで活動しているサークルの活動発表会を、初めて地域の小学校で開催した。いきセンの事業として活動している「はざまカフェ」に乳幼児向けのプレイコーナーを担当してもらった。地域で園芸療法を進めたい方に草木を使ったクリスマスのリースづくりのワークショップを担当してもらった。京都市だいが学園にカフェブースをお願いしゆつくりとフェスティバルを楽しんでもらえる雰囲気にした。

2 準備段階での工夫

会場をいきセンからすぐ近くの小学校の体育館を借り、本格的なステージ発表をすることが出来た。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

新たな活動への参画や団体間の連携が生まれることおよび多様な来場者にきていただく。

(2) 事業実施による目標の達成度

出演者・出店者アンケートの結果、「大変満足」「満足」を合わせると目標を大幅に上回る高い評価を得ることができた。

普段小学校のステージで発表する機会がないので、過去最高の出演者数だった。

「多くの観客の前で披露でき、活動の励みになった」「他の団体の発表を見ることで刺激を受けた」との声があった。発表会に向けた練習のため、サークルの活動時間が増えたことで、貸館の稼働率が向上した。

4 今後の抱負

体育館という事で子どもたちが思いっきり楽しめる半面、静かな音楽や朗読の時に声が聞こえないなどの声があったので次回は、音量や配置を工夫して参加者も出演者も楽しめるようにしたい。

事業風景の写真



⑤「醍醐みらいユースセンター」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年5月～令和8年3月
毎月第2金曜日・第4月曜日 各16時30分～20時
- 2 開催場所：醍醐いきいき市民活動センターサロン、集会室
- 3 参加人数：延べ84名
- 4 協力団体等：京都市ユースサービス協会、体験型子ども食堂みらい食堂、京都橘大学

1 事業内容

地域におけるユース世代（主に中学生）の居場所不足に対応するため、市民活動センターのサロンを活用し、月2回の頻度で「ユース世代の居場所づくり」を実施した。参加するユース世代が安心して過ごせるよう、e-スポーツコーナー、ボードゲーム、自習スペースなどのコンテンツを用意した。

さらに、子ども食堂との共催により、毎回100円カフェを開催し軽食を提供した。

また、月2回のうち1回は、卓球の日や醍醐若者食堂も実施し、温かみのある居場所づくりを提供した。

2 準備段階での工夫

みらい食堂のスタッフが駄菓子屋を出店しながら見守りを行い、カレーや鍋を囲む食育企画も実施。また地域活動をしている企業で結成している「ユニーク美化クラブ」と協力した夜間の清掃活動など、企業や地域団体と若者を繋ぐ機会を創出した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

中高生が「ここにいていい」と思える心理的安全性の確保、および地域活動への参画を通じた自己肯定感の向上。

（2）事業実施による目標の達成度

当初は「広場に集まる行き場のない子たち」という側面があったが、センター内へ誘導したことで、落ち着いて過ごせる空間を提供できた。また、センター主催の「秋祭り」でユースの若者が駄菓子屋の屋台を手伝うなど、単なる利用者から「運営の協力者」へと変化が見られた。清掃活動を通じ「俺らええことしてやるん」という発言が出るなど、地域への帰属意識が高まったことは大きな成果と言える。

4 今後の抱負

今年度は「居場所」の提供から始まり、地域活動への「参画」へとステップアップすることができた。今後は、若者たちが自ら企画を立案・運営する「ユース運営会議」のような仕組みをさらに強化したい。また、中高生と地域の大人が自然に交流できる機会（多世代交流プロジェクト）を継続的に設け、若者の柔軟な発想を軸とした、より活力ある醍醐地域のコミュニティづくりを推進していきたい。

事業風景の写真



⑥「お花見交流会」

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年4月5日（土）11時～15時
- 2 開催場所：醍醐いきいき市民活動センター横サロン
- 3 参加人数：30名
- 4 協力団体等：体験型子ども食堂みらい食堂

1 事業内容

醍醐いきいきのサロンのお庭で、地域住民やいきセン利用団体・サークル利用者を対象にしたお花見交流会を開催した。イベント中は自由に出入り可能とし、参加費は無料。いきセン利用団体による演奏会（12時～13時）、昨年度のいきセン事業を振り返る動画上映、飲食販売（子ども食堂担当）。サロンの利活用のアンケートを実施した。

2 準備段階での工夫

今年は飲食を子ども食堂に担当してもらったので、スタッフが参加者とゆっくり話ができる仕組みづくりを行った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

いきセン利用団体間の交流促進をし、醍醐いきいきの活動を周知してもらおう。地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用をする。

（2）事業実施による目標の達成度

事業関係者といきセン利用団体間の交流促進ができた。

動画上映により、普段事業に参加しない方にもセンターの活動内容が伝わり、新たな関心を得るきっかけとなった。演奏会を通じた文化的交流も実現し、参加者の満足度も高かった。地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用地域住民の参加率やリピート参加者の数から見て、地域交流の促進という面では目標を十分に達成しました。アンケートからサロンの新たな活用の要望も沢山いただいた。

交流会の後にはいきセンの核（ファン）となる関係者の懇親会を行いより深くつながることができた。懇親会は子ども食堂に飲食を担ってもらい活動資金を得るきっかけとなった。

4 今後の抱負

混雑時にサロンが手狭に感じられたため、導線の整理や座席配置の工夫が必要であるが、参加者さんからは満足度の高いお声をいただき来年度も実施する予定。

事業風景の写真



⑦「連携事業」

事業の概要

「辰巳保育所夏祭り」

- 1 開催日時：令和7年7月18日16時～17時
- 2 開催場所：辰巳保育所
- 3 参加人数：延べ60名
- 4 協力団体等：辰巳保育所、はざまカフェ

内容：辰巳保育所の在園時、地域の親子向けに夏祭りを開催。醍醐いきセンとはざまカフェで手作りコーナーを担当。子育て層にセンターを周知した。

効果：地域の親子が安心して参加できる交流の場となり、保育所と地域のつながりを強化することができた。いきセンの手作りコーナーは親子のふれあいを促進し、参加者の満足度も高かった。



「つながるプラットフォームミーティング」

- 1 開催日時：①令和7年9月5日18時30分～20時
②令和7年11月26日13時30分～15時30分
③令和8年3月19日18時30分～20時
- 2 開催場所：醍醐支所
- 3 参加人数：延べ150名
- 4 協力団体等：醍醐支所健康長寿推進課、社会福祉協議会醍醐分室、京都市協働コーディネーター

内容：重層的支援の一環として地域において多様な主体が出会いまなび合う場「つながるプラットフォーム」の開催。コアメンバーとして参加し福祉だけでなくまちづくり団体なども混ざり合う交流の場を提供した。



「meetusLabo」

- 1 開催日時：令和 7 年 12 月 13 日 14 時～16 時
- 2 開催場所：パセオ・ダイゴローアトリウム及び緑道
- 3 参加人数：延べ 150 名
- 4 協力団体等：京都市

内容：パセオ・ダイゴローを使った社会実験。醍醐いきセンブースとして子育て層の声を聞いたり広報を行った。

効果：子育て層のニーズを直接聞き取る貴重な機会となり、いきセンの情報発信・広報活動にも有効であった。商業施設を活用した実験的な取組が、新たな地域連携の可能性を示した。



「醍醐まちづくりカフェ」

- 1 開催日時：①令和 7 年 9 月 20 日 13 時～15 時
②令和 7 年 11 月 8 日 14 時～16 時
③令和 8 年 3 月 13 日 16 時～18 時
- 2 開催場所：①パセオ・ダイゴローアトリウム
②折戸公園
③醍醐支所会議室

- 3 参加人数：延べ 100 名
- 4 協力団体等：伏見区役所醍醐支所

内容：まちづくり団体と行政との交流の場として、いきセンは場の進行として参加した。

効果：行政とまちづくり団体がフラットに交流できる場を提供し、協働のきっかけづくりにつながった。いきセンが企画、進行を担うことで、様々な団体や個人と繋がり新しい協働が生まれた。結果、醍醐地域のまちづくりに関わる関係人口が増えた。



「春日野小学校フレンズゲームラリー」

- 1 開催日時：令和8年2月25日9時～10時
- 2 開催場所：春日野小学校体育館
- 3 参加人数：延べ200名
- 4 協力団体等：京都市立春日野小学校

内容：春日野小学校の学校の取り組みに参加。醍醐いきセンブースとして子どもたちの楽しめるブースを開催した。

効果：いきセンを知らない子どもたちと顔の見える第一歩として楽しみながらいきセンを知ってもらえた。子どもたちの交流と主体性を育む機会となり、学校と地域をつなぐ取組として保護者・教職員からも好評を得た。いきセンの地域連携の一環として、教育分野との協力体制を強化した。



「醍醐子育てオープンデイ」

- 1 開催日時：令和8年2月22日11時～15時
- 2 開催場所：醍醐支所全館
- 3 参加人数：延べ1200名
- 4 協力団体等：伏見区役所醍醐支所

内容：支所という公的施設を「親子で楽しめる場」として開放し、子育て層に向けたイベントを開催した。

効果：もともといきセンの単独事業であった「ゆめプレゼンテーション」では子どもが夢を話し、区長や若い起業家が応援することで、夢を語っても恥ずかしくないと言う自己肯定感をあげる経験をしてもらった。また地域の小学校の総合学習発表「醍醐のまちについて」を通じて、子どもたちの自己表現の場を創出した。子ども食堂や地域福祉団体、企業、大学、市民活動団体との連携により、それぞれの得意を活かしたブース出店をしてもらい、来場者に楽しんでもらうだけでなく、出店者同士もつながることが出来て、アンケートの満足度も高かった。本事業の成果は、地域団体が一体となり、一つの大きな目標に向かって「共創」した点にある。いきセンは運営から関わり、様々な団体をコーディネートすることで行政と地域の橋渡しを担うことが出来た。



「同和園さくら祭り」

- 1 開催日時：令和8年3月28日11時～15時
- 2 開催場所：社会福祉法人同和園
- 3 参加人数：延べ1,000名
- 4 協力団体等：社会福祉法人同和園、京都醍醐北郵便局、京都福祉サービス協会醍醐事務所、京都橘大学、京都市だいが学園、京都市やましな学園、三笑堂、すばる醍醐、たのしい家醍醐、醍醐の家ほっこり、TACOSBOX、つばさクラブ少年団、社会福祉法人やましなの里、POLALEI SALPN、ヒノリーノ、宝生苑、メナード、食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

内容：社会福祉法人同和園にてさくら祭りを開催し、いきセンは共催としてブースを出店した。

効果：市民活動の相談コーナーを設けて、いきセンとしての役割を果たすことが出来た。高齢者施設における地域開放イベントとして、住民との交流を深める場となった。世代間交流の促進に寄与し、福祉と地域活動の橋渡し役としての意義を発揮した。



今年度の「だいが未来プロジェクト」では、気軽に立ち寄れる「ふらっと相談カフェ」から、地域のつながりを深める「井戸端会議」、そして多世代が盛り上がった「秋祭り」「いきいきフェスティバル」など、多様なアプローチで市民活動の支援と活性化に取り組んだ。

特に「みらいユースセンター」や「お花見交流会」、各種「連携事業」を通じて、若者からシニアまで幅広い世代の交流が生まれ、サロンを中心とした地域コミュニティの基盤が一段と強まったと感じる。

今回の成果と見えてきた課題を活かし、今後も誰もが主体的に関われる持続可能な地域づくりをいきいき市民活動センターとして進めていきたい。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】文化サロンづくり「みんなのアトリエ」（サロン運営・活用事業）

- ① まちかど美術館
- ② カルチャースペース（A 尊鉢さんのギターで歌おう！B 書き方教室C 月替わりサロンー「はじまるサロン」、「ブック&レコードサロン」）
- ③ はざまカフェ

事業の概要

1 開催日時：

① 令和7年4月～令和8年3月

② A令和7年6月～令和8年2月（毎月第2木曜 13時～15時 計9回）

令和7年6/12、7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11、令和8年1/8、2/12

B令和7年6月～令和8年2月（毎月第1、第3水曜 13時～15時 計18回）

令和7年6/4、6/18、7/2、7/16、8/6、8/20、9/3、9/17、10/1、10/15、

11/5、11/19、12/3、12/17、

令和8年1/7、1/21、2/4、2/18

C令和7年6月～令和8年2月（毎月第3土曜 14時～16時 計9回）

令和7年6/20、7/19、8/16、9/20、10/18、11/15、12/20、令和8年1/17、2/21

③ 令和7年5/20（火）10時～11時30分、7/11（金）10時30分～13時

7/18（金）15時45分～16時50分、8/11（月）12時～15時、

9/27（土）16時～20時、10/7（火）10時～11時30分、

11/8（土）14時～16時、11/29（土）9時30分～12時、

12/7（日）13時～16時、12/13（土）10時30分～13時30分

12/14（日）11時～16時、12/21（日）10時～15時

令和8年2/22（日）10時～15時、3/8（日）10時～12時

- 2 開催場所： ①～③ サロン「おいない」
※③→サロン「おいない」以外の開催については、以下のとおり。
醍醐支所（a g n）、醍醐和光寮（b）、辰巳保育所（d）、折戸公園（h）
醍醐図書館（i）、春日野小学校（j）、パセオダイゴロ（k l）京都橘大学
（l）、カフェ&デリーヒノリーノ（m）、醍醐中央図書館（o）
- 3 参加人数：①延べ748名 ②A計47名 B計37名 C計72名
③計127名（イベント出店を除く）
- 4 協力団体 ①春日丘センター③京都市、醍醐支所、醍醐和光寮、辰巳保育所、京都橘大学
カフェ&デリーヒノリーノ、醍醐図書館、醍醐中央図書館
- 5 予算： 2,072,200 円 / 決算： 1,849,867 円

① まちかど美術館

1 事業内容

地域の高齢者施設「春日丘センター」の利用者が作成した手作り作品を展示した。

2 準備段階での工夫

春日丘センターは近隣の施設であり、日常からセンターのスタッフとコミュニケーションをとっているため、スムーズに展示することができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

近くにある高齢者施設の利用者の手作り作品を展示することで、地域間交流を図ることを目標にした。

（2）事業実施による目的の達成度

春日丘センターのスタッフの減少や利用者の高齢化により、前年度と比べると展示の頻度が少なくなった。

4 今後の抱負

今後、展示の頻度が少なくなることが予想される。無理のない範囲で地域間交流を図っていきたい。

事業風景の写真

① 「まちかど美術館」



② A 尊鉢さんのギターで歌おう！

1 事業内容

尊鉢さんのギター演奏で参加者が懐かしい歌を歌ったり、ゆっくりおしゃべりする場をつくった。

2 準備段階での工夫

歌集を用意して、参加者に使用してもらっている。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

参加者がみんなで歌を歌いおしゃべりすることによって、参加者が交流して楽しむ場をつくることを目標にした。

(2) 事業実施による目標の達成度

口コミ効果もあり、参加人数が少しずつではあるが増えている。

○参加者の反応

参加者にとって心安らぐ時間になっており、リピーターも多い。参加者の満足度は高い。

4 今後の抱負

参加者が歌える歌を増やすために、今ある歌集をさらに充実させたい。

事業風景の写真

② A「尊鉢さんのギターで歌おう！」

第2木曜
13～15時



尊鉢さんの
ギター で歌おう！



尊鉢さんのギター演奏で歌いませんか？
懐かしい歌を歌ったり、
ゆっくりおしゃべりしたり…
みんなで楽しみましょう！

そんなさとし
生ギター演奏 尊鉢 敏史さん

中学校時代からアコースティックギターを弾き始め、昭和40年代のフォークソングの洗礼を受ける。京都市内の各地で弾き語りを行うかたわら、日本各地を旅する“自由人”

初回：令和7年6月12日（木）から月1回スタート！
時間：13：00～15：00

♪童謡
♪演歌
♪歌謡曲など

開催予定日（令和7年6月～令和8年2月まで、開催日は都合により変更の可能性あり）
令和7年 7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11
 令和8年 1/8、2/12

参加費：無料
対 象：どなたでも

いつでも都合の良い日にご参加ください！



②B 書き方教室

1 事業内容

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しみ、ゆったりする場をつくった。

2 準備段階での工夫

筆や墨、半紙など必要なものは、すべていきセンで用意した。参加者の方が気軽に参加できるようにした。月2回開催で月毎にお手本を変えて、参加者に配布した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しむ場をつくることを目標にした。

(2) 事業実施による目標の達成度

気軽に「書」ができる場があることが参加者から喜ばれている。

○参加者の反応

マイペースで書ができることがいいという声を聴いている。

4 今後の抱負

好評につき次年度も実施を予定している。次年度も参加費を有料（実費徴収）としたい。

事業風景の写真

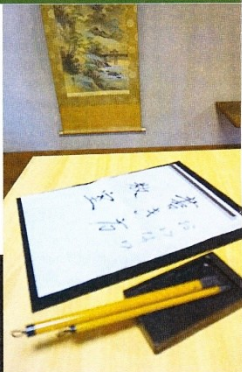
② B「書き方教室」

第1水曜
第3水曜
13～15時



書き方教室

いきセンのスタッフと一緒に
お気軽にお習字やペン習字をしませんか？
ゆったりとした時間を楽しみましょう！
※書道の指導者はおりません。
筆や半紙等はこちらで用意しておりますが
お持ちいただいても構いません。



初回：令和7年6月4日（水）からスタート！
時間：13：00～15：00 入退室自由

参加費：年間500円
筆ペンや半紙など
消耗品費として
頂戴いたします

開催予定日
(令和7年6月～令和8年2月まで、開催日は都合により変更の可能性あり)
令和7年6/18、7/2、7/16、8/6、8/20、9/3、9/17、10/1、10/15
11/5、11/19、12/3、12/17 **令和8年**1/7、1/21、2/4、2/18
対 象：どなたでも



②C 月替わりサロン（「はじまるサロン」、「ブック&レコードサロン」

1 事業内容

「はじまるサロン」と「ブック&レコードサロン」のどちらかを月替わりで開催する。

「はじまるサロン」、は、ゲストスピーカーをお呼びして、あるテーマに沿って参加者全員でフリートークを行う。

「ブック&レコードサロン」は、参加者によるお勧めの本と音楽（レコード、CD 他）の紹介の場。参加者同士でおしゃべりをして交流する。

2 準備段階での工夫

サロン事業全体のチラシを小冊子として春先に一括で作成し広報を行った。「月替わりサロン」は毎月 1 回の開催で年間 9 回開催したが、個々のチラシは作成せずに SNS で直前広報して集客を行った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

若い人たちの問題意識や関心事をトピックとして取り上げ、幅広い世代が集い、話し合い、そして交流できる場をつくる。

(2) 事業実施による目的の達成度

ゲストスピーカーが参加者と対話することにより、双方に学びや気づきがあった。

年間を通して多世代が集い、交流が図られた。参加者の満足度は高く、事業目的は達成できた。

○参加者の反応

・ゲストスピーカーの方から参加者にプレゼンすることにより、今やっていることに自信を持つことができたという声があった。

・「若い人たちの発想や興味事にアンテナをはれる企画で面白かった。」

4 今後の抱負

・レコードプレイヤーの更なる活用や生演奏を行うなど、音楽による場の創出を行いたい。

・トピック設定の工夫と学びの要素を加味したい。

事業風景の写真

② C「月替わりサロン」

みんなて
楽しめ

カルチャースペース サロン「おいない」

はじまるサロンとブック&レコードサロン どちらかを月替わりで開催！

第3土曜14～16時 月替わり **サロン**

日時：令和7年1月15日(土) 14:00～16:00

本と音楽で広がる世界を楽しみましょう
ブック&レコードサロン

前半…おすすめ本の紹介
後半…持ち寄ったレコード
(またはCD)を
聴いておしゃべり

場 所：サロン「おいない」
参加費：無料
申 込：不要
対 象：どなたでも
入退室自由

今回おすすめ本を語るの
三宅 正太さん
(みやけ しょうた) profile～ファンタジーグラフィッカー～
2018年に東京から京都に、NPO法人 山科福祉こどものひろばでスタッフとして働いている。

トピック
「正しく生きられない自分たちが、正論の飛び交う現代社会を
どう生き抜いていくか」
＜紹介本＞
『子どもとゆく』（山田太一・斎藤次郎ほか『子どもとゆく』編集部 編）
2004年に発行された「子ども」に関わる人たちの手によって生まれた1冊。1985年から40年積み重ねら
れた言葉には、2025年現在の子育てや教育に欠かせない視座や知見が詰まっている。

＜紹介するレコード＞
カネコアヤノ『タオルケツは穏やかなひとりでに』

【お問合せ先】
京都市醍醐いきいき市民活動センター ☎ 075-571-0035
〒601-1345 京都市伏見区醍醐外山街道21-21
11時～15時30分まで受付可能 11時～15時30分まで受付可能

みんなて
楽しめ

カルチャースペース サロン「おいない」

はじまるサロンとブック&レコードサロン どちらかを月替わりで開催！

第3土曜14～16時 月替わり **サロン**

日時：令和8年2月21日(土) 14:00～16:00

何がはじまる予感…
はじまるサロン

毎週ゲストスピーカーをお呼びして、あるテーマに沿って
参加者全員でフリートークを行って交流します。

場 所：サロン「おいない」
参加費：無料
申 込：不要
対 象：どなたでも
入退室自由

今回の話題提供者は **吉川 日菜子 さん**
(よしかわ ひなこ)
Profile～京都府出身・東京都在住。22歳。社会人1年目の会社員。
考古学の魅力にはまり、遺跡巡りをするのが趣味です。

トピック「人はなぜ傷つき、傷つけてしまうのか
—縄文時代に学ぶ、人との関わり方—」

人と関わる中で、知らないうちに傷ついたり、逆に誰かを傷つけ
てしまった経験は、誰にでもあると思います。
現代は便利になった一方で、人との距離感が難しくなっています。
実は1万年以上、争いの少ない時代が続いた「縄文時代」がありま
した。その暮らしや考え方をヒントに、これからの人との関わり方、
豊かな生き方について、みなさんと一緒に考えてみたいと思いま
す。

【お問合せ先】
京都市醍醐いきいき市民活動センター ☎ 075-571-0035
〒601-1345 京都市伏見区醍醐外山街道21-21
11時～15時30分まで受付可能 11時～15時30分まで受付可能



③はざまカフェ

1 事業内容

ベビー&キッズ用品交換会を中心として、子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を醍醐の各地で実施した。

2 準備段階での工夫

季節に合わせた子ども向けのイベント（「竹を使ったそうめん流しをしよう！」）を開催するなど親子がワクワクして参加できる企画を考えた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を行い、地域で子育てについて気軽におしゃべりをして交流する場をつくる。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・一昨年度の地域での活動がベースになって、行政、図書館、大学および各施設でベビー&キッズ用品交換会を開催した。
- ・メンバーの増強やボランティアスタッフの確保が図られ、イベント当日のスタッフ不足がある程度、解消された。
- ・ベビー&キッズ用品交換会に参加された方から、ベビー用品や子ども服の提供、寄付が相次いだ。

4 今後の抱負

- ・来年度もベビー&キッズ用品交換会を中心にイベントを開催する。そのイベントの中で子育て中の方の困りごとやニーズを拾い上げ、企画に反映、生かしていく。
- ・限られたスタッフで当日のイベントが運営できるような内容や規模を考える。

事業風景の写真

③はざまカフェ

はざまカフェ presents

竹を使った流しそうめんをしよう！
夏ならではの遊びもできるよ
+ベビー&キッズ用品交換会

参加費
大人1人500円
小学生1人300円
幼児無料

先着10組限定！
応募申込

2025
8月11日(祝月) 12:00 START

会場 醍醐いきいき市民活動センター サロン

竹をつかった
流しそうめん

飲食コーナー
かき氷、フランクフルト
そうめん

交換会
皆様にご好評頂いている
交換会も同時開催！

ワクワクするイベントが盛りだくさん！

お申し込み方法
・InstagramのDMもしくは
お電話にてお申し込みください。
・お申し込み時
参加者全員のお名前(お子様と併せて学年や学年)
当日の連絡のつくご住所をお知らせください。
※Q1は、お申し込み後、お申し込み
お申し込み・お問い合わせ先

醍醐いきいき市民活動センター
〒601-1545
京都市伏見区醍醐外山街道47-71
075-571-0035
hazamacafe@gmail.com

LINE
Instagram



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和7年度実績：1,483,280円（前年度比99%）

〔内訳 会議室等：1,422,200円
付属設備：61,080円 ※自主事業分を除く〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和7年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

満足	普通	不満	無回答	
70.1%	27.9%	0.7%	1.1%	

(2) センター独自アンケート

○概ね満足

- ・子どもたちの笑顔が見られたこと、来場者の方々と交流が出来たことが良かった。
(醍醐いきいきフェスティバル)
- ・とてもためになる研修でした。(醍醐 de ワイワイ井戸端会議)

3 意見等への主な対応状況

○夏場は空調が少し暑かった

- ・集会室のエアコン4基のうち、1基が故障していたため修繕した。

○かがみをもっと広くしてほしい

- ・会議室3に鏡を設置したが、もう1台増設した。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・貸館について

利用率も大きく下がることもなく、現状を維持できている。活動発表の場があることで、一時的ではあるが利用も増えるので、いきセンの秋祭りやフェスティバルだけでなく、地域のイベントや施設と連携して、活動発表の機会を増やしていきたい。

・市民活動支援・活性化事業について

7年度も他団体と連携して行うことが多かった。地元の若手起業家ともつながることが出来、8年度は更に新たなジャンルでの子ども若者向け事業へと展開予定。今後もいきセンが Hub になり、様々な団体や施設とつながり、地域に根差した活動が生まれるよう、努めていきたい。

・サロン運営・活用事業について

カルチャースペースの「尊鉢さんのギターで歌おう!」「書き方教室」においては、参加者数は多くないが、高齢者の外に出るきっかけとして機能していた。「月替りサロン」では、多様なゲストスピーカーによる話題提供で、学生から高齢者まで多世代の交流を図ることができた。

・7年度も多く多くの団体や施設、行政からお声かけをいただき、連携しながら事業を実施することができた。これまで以上に信頼関係が築け、8年度はより一層地域に根ざした活動を実施し、いきセンのコアなファンを増やしていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○特になし